

若い力に期待

札幌学院大学社会情報学部

千葉 正喜

日本荷電粒子核反応データグループの活動の中核は、日本で生産される核反応データをデータベース NRDF に編集・蓄積することにある。私は、この作業が核物理分野の広い専門性を必要とするとともに、この仕事自身が生産されたオリジナルのデータに新たな価値を附加する創造的な内容を持つものであると考えている。一度データ収集のフォーマットを決めれば、その後のデータ収集は自動的に進むというものではない。新しい実験による新しいデータが次々と生産されている。NRDF フォーマットはそのことを考慮して考え出されたとはいえ、一貫性をもってデータベースを編成していくには「どこを保存しどこを変えていくか」の的確な判断と創造性が絶えず求められる。

この「データベース構築」という事業の中核を日本荷電粒子核反応データグループがこれまで堅持してきたことが、また NRDF の活動の裾野を広げているように見える。情報技術の発達と共に、「データベースの検索利用システム」、「辞書システムを含むデータエントリ編集入力システム」、「数値データのグラフ読み取りシステム」、「データの国際交換と国際データセンターネットワークへの参加」などがそれである。

荷電粒子核反応データファイル年次報告書 (NRDF ANNUAL REPORT) はこの号で No.16 を数えるが、その内容はしだいに中核事業を推進させるためのシステムやその事業活動の裾野に関わる報告がかなりの部分を占めるようになってきている。中核事業それ自身については、毎号、号末に控えめに「資料」として掲載されているのが興味深い。データベース事業を継続していくには、このような中核事業に関連する多様な研究活動がその必要不可欠の部分として伴うものであることをあらためて認識させられる。NRDF データベースの作成が文部省事業費で行うようになった年に、田中一先生が日本荷電粒子核反応データグループの活動「荷電粒子核反応データファイル年次報告書(NRDF Annual Report)」の発行を提案されたことがあらためて鮮明に思い出される。

この間、原子核研究室などの若手の方々から核データ活動に対して、自身の仕事としての興味や関心が持たれているように感じている。今年のこの年次報告書にもそのことがよく現れていると実感している。このようなグループとしての継続的なデータベース構築活動が評価されたことによるものと思われるが、NRDF の活動が今年から文部科学省の「共通基盤技術の革新的原子炉技術開発」に位置付けられ新たな展開を見せようとしている。

私自身は、NRDF 管理運営委員会のメンバーのひとりとして、NRDF 収録データの EXFOR への変換と国際核データセンターネットワークへの繋がり維持、そしてデータベース利用に IntelligentPad 技術を導入するなど、データベース構築活動に多少なりとも関わってきたが、このような NRDF 新たな展開をたいへん喜ばしいことと思うと共に、広がった活躍の場での若い力の働きにおおいに期待している。

